第五次新宿区子ども読書活動推進計画

令和２（２０２０）年度～令和５（２０２３）年度

自ら読書を楽しみ、
学び、成長する新宿の子どもたち

令和２（２０２０）年３月

新宿区教育委員会

はじめに

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、思考力や表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上でとても大切なものです。

新宿区では「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、新宿区子ども読書活動推進計画を平成１６年３月に策定以来、子どもたちがあらゆる機会と場所で自主的に読書を楽しむことができるよう、子どもの読書環境の整備と読書活動の支援に取り組んできました。

この度、第五次新宿区子ども読書活動推進計画を策定するに当たっては、これまでの実績やインターネットの普及を踏まえ、今後の子どもたちを取り巻く社会情勢の変化等も視野に入れた読書支援により、子どもたちが読書習慣を育み、読書活動を通じて「自ら読書を楽しみ、学び、成長する新宿の子どもたち」となることを基本目標としました。

その実現に向けて、本計画では、「基本方針１　全ての子どもがあらゆる機会と場所において、自主的に読書活動ができる環境の充実」、「基本方針２　全ての子どもに対する個々の状況に応じた読書活動の支援」、「基本方針３　子ども読書活動推進の基盤整備」の「３つの基本方針」を掲げ、子どもの読書習慣の形成を支援していきます。

今後、子どもが自ら読書を楽しみ、学び、成長できるよう、関係機関が連携し、家庭や地域との協働により、子どもの読書環境整備と読書活動支援を更に推進していきます。

令和２（2020）年３月

新宿区教育委員会

目　次

第１章　第五次新宿区子ども読書活動推進計画の基本的な考え方 …… 2
1 子どもの読書活動の意義 …… 3
2 第五次新宿区子ども読書活動推進計画の基本的な考え方 …… 4

第２章　子どもの読書活動推進に向けて　現状と課題、目指す方向性 …… 6
1 これまでの新宿区の取組状況 …… 7
2 第五次推進計画策定にあたっての留意点 …… 12
3 今後の取組課題と第五次推進計画の方向性 …… 23

第３章　計画の「基本方針」と「具体的な取組の方向性」 …… 26
1 基本目標 …… 27
2 ３つの基本方針と３つの具体的な取組の方向性 …… 27
3 数値目標の設定 …… 32

第４章　基本目標達成に向けての具体的取組 …… 38
1 施策体系 …… 39
2 新たに展開する事業と重点施策 …… 39
3 計画推進の役割分担 …… 41

第五次新宿区子ども読書活動推進計画体系図 …… 44
4 体系に基づいた具体的取組 …… 48
基本方針１▶ 全ての子どもがあらゆる機会と場所において、自主的に読書活動ができる環境の充実 … 48
基本方針２▶ 全ての子どもに対する個々の状況に応じた読書活動の支援 …… 58
基本方針３▶ 子ども読書活動推進の基盤整備 …… 69

資料編 …… 74
資料１　関連法令と国、東京都の計画 …… 75
資料２　子ども読書活動に関するアンケート調査結果 …… 82
資料３　区立図書館蔵書数 …… 93
資料４　区立小・中学校の学校図書館状況 …… 96
資料５　幼稚園・保育園・子育て関係施設等の蔵書数 …… 100
資料６　第五次新宿区子ども読書活動推進計画策定の検討経過等 …… 104

第１章

第五次
新宿区子ども読書活動推進計画の
基本的な考え方

第１章　第五次新宿区子ども読書活動推進計画の基本的な考え方

１　子どもの読書活動の意義

子どもの読書活動の意義は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、思考力や表現力を高め、創造力を豊かにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上でとても大切なものです。読書を通じて、子どもは普段の生活では得られない未知の世界を体験し、様々な知識や社会の出来事を知ることができます。

子どもが読書活動によって得る効果は、大きく三点あると考えます。

一点目は、子どもの頃から読書にいそしむことで、将来への夢を持ち、自己実現を図ることができるようになることです。

二点目は、言葉を学び、文章を読み取り、作者の意図を考えながら自己と向き合い、さらに表現することで、言語能力と表現力とを高められることです。

三点目は、インターネット等の情報通信手段*が普及し、子どもたちにも身近な存在となっている今日において、従来の紙の本による「読書」に加えて、情報通信手段の特徴を活かして読書を楽しみ、情報リテラシーを身に付け、正しい情報を的確に選択して活用できるようになることが期待されることです。

このように子どもの読書活動は、子どもが成長していく上で極めて重要であり、年齢や個々の状況に応じた読書支援を途切れなく行うことが大切です。

第五次新宿区子ども読書活動推進計画の策定に当たっては、基本目標に掲げた「自ら読書を楽しみ、学び、成長する新宿の子どもたち」を実現できるよう、新宿区全体で子どもの読書環境を整備し、読書活動への支援を充実していきます。

＊　以後、インターネット・ＳＮＳ（ソーシャル・ネットワーキング・サービス：フェイスブック、ツイッター、ラインほか）等を総称して、国の第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」に倣い、「情報通信手段」という。

２　第五次新宿区子ども読書活動推進計画の基本的な考え方

（１）　計画の目的

第五次新宿区子ども読書活動推進計画*は、「子どもの読書活動の意義」に基づき、計画の基本目標と、その実現のための基本方針や具体的な取組の方向性、施策等を総合的かつ体系的に明らかにし、子どもが自ら読書を楽しみ、学び、成長していく活動を推進することを目的としています。

＊　以後、第五次新宿区子ども読書活動推進計画を「第五次推進計画」という。「新宿区子ども読書活動推進計画」（平成１５年度～平成１９年度）を「第一次推進計画」、以降は「第四次推進計画」等とする。

（２）　計画の位置付け

第五次推進計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」*1 第９条に基づき、策定します。

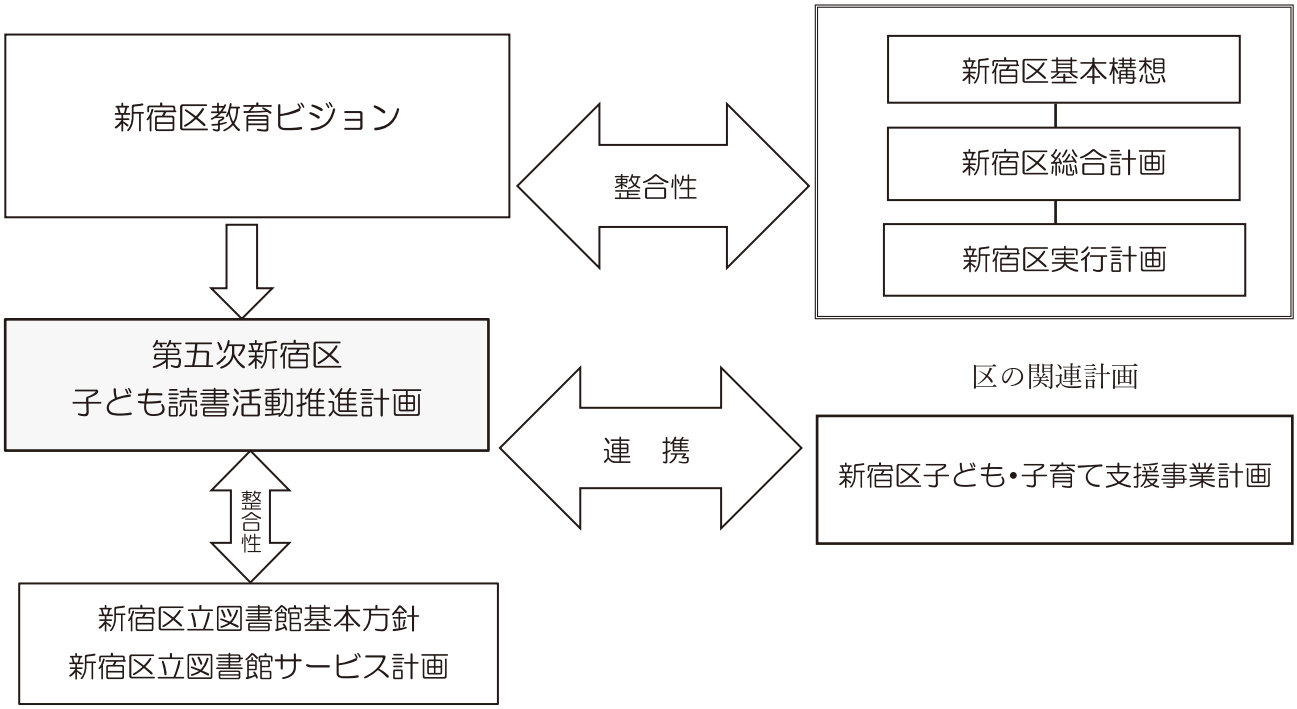
本計画は、国、東京都の計画*2 との整合性を図りつつ、新宿区教育ビジョンの取組の一つである「子ども読書活動の推進」の実現に向けて策定します。

また、施策や個別事業の実施に当たっては、新宿区子ども・子育て支援事業計画等と連携し、関係機関と十分に協力して推進します。（図１参照）

*1　以下、「法」という。

*2　国は法８条により第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」、東京都は法９条により「第三次東京都子供読書活動推進計画」を策定している。

図１　第五次推進計画の位置付け



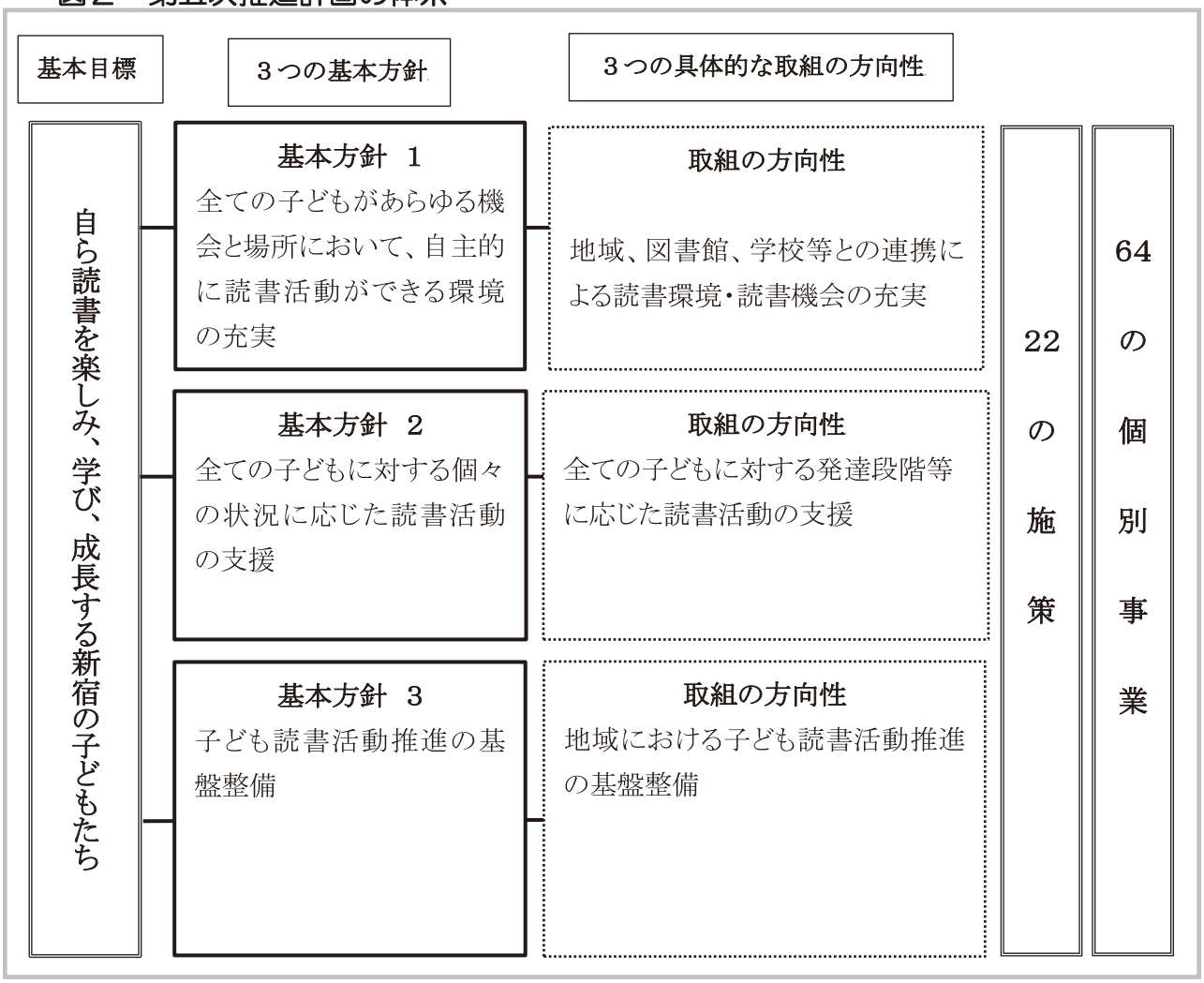
（3）　計画の体系

第五次推進計画は、これまでの取組状況と第四次推進計画の検証を踏まえて「基本目標」を「自ら読書を楽しみ、学び、成長する新宿の子どもたち」とします。

計画の体系は、その達成に向けた「３つの基本方針」と「３つの具体的な取組の方向性」、「２２の施策」、「６４の個別事業」による構成とします。（図２参照）

これまでの取組状況と課題、策定の方向性は第 2 章及び第 3 章、計画体系の各項目は第 4 章で詳述します。

図２　第五次推進計画の体系



（4）　計画の期間

第五次推進計画は、令和２（2020）年度から令和５（2023）年度までの４年間を計画期間とします。

（5）　計画の対象

第五次推進計画は、０歳からおおむね１８歳までの子どもを対象にします。

第２章

子どもの読書活動推進に向けて
現状と課題、目指す方向性

第２章　子どもの読書活動の推進に向けて　現状と課題、目指す方向性

１　これまでの新宿区の取組状況

新宿区は、平成１５年度に「新宿区子ども読書活動推進計画」を策定以来、子どもの読書環境整備と読書活動支援を推進してきました。

（１）　新宿区の計画策定状況

次の計画により、乳幼児期から本への関心を高める事業、区立図書館の団体貸出を活用し、学校や子育て関係施設*等で読書に親しめる環境づくり、区立学校における朝読書の定着、蔵書充実や司書配置等による学校図書館の機能充実を着実に推進しました。

＊　以下、子ども総合センター、子ども家庭支援センター、児童館等を「子育て関係施設」という。

①　「新宿区子ども読書活動推進計画」　　（平成１５年度～平成１９年度）
②　「第二次新宿区子ども読書活動推進計画」（平成２０年度～平成２３年度）
③　「第三次新宿区子ども読書活動推進計画」（平成２４年度～平成２７年度）
④　「第四次新宿区子ども読書活動推進計画」（平成２８年度～令和元年度）

（２）　第四次新宿区子ども読書活動推進計画（平成２８年度～令和元年度）の取組

第三次推進計画の「３つの視点」を継承して全６４事業を推進し、「５つの数値目標」のうち４つが目標値を上回りました。取組の成果は、以下のとおりです。

〔視点１〕家庭、地域ぐるみの読書環境・読書活動の充実　　１１事業

①　区立図書館

○　新規事業として「新宿子育てメッセにおける区立図書館の周知」や「家庭読書の推進」事業に取り組みました。

また、保健センターと連携して「絵本でふれあう子育て支援」を推進し、家庭での読み聞かせの普及に取り組むとともに、図書館サポーターへの研修も行いました。

②　学校、幼稚園・子ども園

○　PTA 等を対象とした「家庭教育講座」等により、保護者に読書の大切さを周知しました。

③　子育て関係施設

○　幼児サークル向けの読み聞かせに取り組みました。

〔視点２〕　区立図書館、子育て関係施設の読書環境・読書活動の充実　４１事業

①　区立図書館

○　平成２９年３月に下落合図書館を開設し、読書環境の充実を図りました。

○　新規事業として、地域資料コーナーの設置や東京オリンピック・パラリンピック関連の図書展示、夏目漱石関連事業等を全館で実施しました。

○　団体貸出の充実を図り、これまで利用のなかった施設への拡充に取り組みました。

○　図書館情報システムを更新し、図書館ホームページに「こどもページ」を作りました。

②　幼稚園・保育園・子ども園

○　書架や採光を工夫し、子どもたちに親しまれる絵本コーナーの充実に取り組みました。

○　資料購入と区立図書館の団体貸出の活用により、子どもの年齢に応じた絵本や子どもたちが興味を持つ資料を取り揃えました。

○　日頃から読み聞かせや貸出を行い、保護者に家庭での読書の大切さを周知しました。

③　子育て関係施設

○　子ども総合センターや子ども家庭支援センター、児童館等では、子どもと本との出会いが身近となるよう、図書室の整備や蔵書の充実を図るとともに、読み聞かせにも取り組みました。

○　区立図書館の団体貸出や出張お話し会を活用し、事業の充実を図りました。

〔視点３〕　学校における読書環境・読書活動の充実　　１２事業

①　学校図書館の機能充実

○　学校図書館は、学校教育において欠くことのできない基礎的な設備であり、学校の教育課程の展開に寄与するとともに、児童又は生徒の健全な教養を育成することを目的としており、「読書センター」＊1、「学習センター」＊2、「情報センター」＊3 の３つの機能があります。

＊１「読書センター」自由な読書活動や読書指導の場としての機能。

＊２「学習センター」自主的・自発的かつ協働的な学習活動を支援し、授業内容を豊かにしてその理解を深める機能。

＊３「情報センター」児童・生徒や教職員の情報ニーズに対応し、情報収集・選択・活用能力を育成する機能。

○　学校図書館が学校教育の中核的な役割を果たし、カリキュラムに活用できるよう、蔵書を充実させました。学校図書館の目的を達成するため、「読書センター」、「学習センター」、「情報センター」の機能を充実しました。

○　学校図書館検索システムを活用し、効率的・効果的な蔵書管理を行っています。

②　学校図書館支援員の全校配置

○　区立小・中学校では、司書教諭や司書等の資格を有する学校図書館支援員を全校に配置（週２回程度）しています。

○　児童・生徒の年齢や発達に応じた読書案内やレファレンス（お薦めの本の紹介や調べ学習に必要な資料・情報などの案内）を行い、学校図書館の機能充実に寄与しました。

○　区立図書館と連携を図り、団体貸出の学習支援便を授業の資料に活用しました。

③　学校図書館の放課後等開放

○　計画期間中に、学校図書館の放課後等開放のモデル実施に取り組みました。令和元年度より、区立小学校全２９校で本格実施しました。

④　朝読書の充実

○　全ての区立小・中学校で朝読書の取組を継続して実施しました。

○　朝読書を始める前に、読み聞かせや図書紹介を行ったり、課題図書を設定するなど、各校が様々な工夫を行い、充実を図りました。

第四次推進計画の数値目標の推移

第四次推進計画の数値目標１～３及び５については、当初の目標値を上回ったことから、目標値を更新しました。

また、他の計画や統計資料との整合性を図るために、平成３０年度以降の実績については基準日を３月末としました。

数値目標１　区立図書館の子どもの延べ利用人数の増加（区内在住者の貸出利用人数延べ数）

年　度	平成27年度実績 ＊計画策定時基準値	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度　目標値 （更新）	
	平成28年1月末	平成29年1月末	平成30年1月末	平成31年3月末	令和2年3月末	
					策定当初目標値	更新後
小学生以下	101,517人	107,971人	122,267人	147,234人	102,000人	160,043人
中　学　生	12,788人	13,478人	14,650人	16,963人	14,500人	17,912人
高 校 生 等	7,275人	7,326人	7,926人	8,447人	7,600人	8,793人
合　　計	121,580人	128,775人	144,843人	172,644人	124,100人	186,748人

平成３０年度実績と平成２７年度実績の合計を比較すると約５１，１００人の増加となりました。小学生以下は約４５，７００人増加し、中・高校生等は約５，３００人増加となりました。

数値目標２　区立図書館における子どもの年間貸出冊数の増加（区内在住者の個人貸出冊数延べ数）

年　度	平成27年度実績 ＊計画策定時基準値	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度　目標値 （更新）	
	平成28年1月末	平成29年1月末	平成30年1月末	平成31年3月末	令和2年3月末	
					策定当初目標値	更新後
小学生以下	375,274冊	392,973冊	435,518冊	470,549冊	384,500冊	495,958冊
中　学　生	32,869冊	32,814冊	35,841冊	37,698冊	37,500冊	38,678冊
高 校 生 等	16,833冊	15,669冊	16,622冊	15,650冊	17,600冊	17,600冊
合　　計	424,976冊	441,456冊	487,981冊	523,897冊	439,600冊	552,236冊

平成３０年度実績と平成２７度実績の合計を比較すると約９８，９００冊の増加となりました。小学生以下は約９５，３００冊増加し、中・高校生等は約３，６００冊増加となりました。

数値目標３　区立図書館における団体貸出冊数の増加

年　　度	平成27年度実績 ＊計画策定時基準値	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度　目標値 （更新）	
	平成28年1月末	平成29年1月末	平成30年1月末	平成31年3月末	令和2年3月末	
					策定当初目標値	更新後
団体貸出数	47,735冊	57,609冊	57,868冊	64,686冊	57,000冊	69,186冊

平成３０年度実績と平成２７年度実績を比較すると約１７，０００冊の増加となりました。

数値目標４　区立図書館における団体貸出の利用率の増加

年　　度	平成27年度実績 ＊計画策定時基準値	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度　目標値
	平成28年1月末	平成29年1月末	平成30年1月末	平成31年3月末	令和2年3月末
※利用率	71.9%	70.8%	73.3%	73.6%	75%

これまで利用のなかった施設等に団体貸出の拡充を図りました。平成３０年度実績と平成２７度実績を比較すると利用率が１．７ポイント増加しました。

＊団体貸出の利用率　区内の学校や幼稚園、保育園、子ども園、子育て関係施設等、団体貸出の対象施設のうち、実際に利用している施設の割合

数値目標５　区立小・中学校の児童・生徒の不読者率＊の減少

年　　度	平成27年度実績 ＊計画策定時基準値	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度　目標値	
	平成28年1月末	平成29年1月末	平成30年1月末	平成31年3月末	令和2年3月末	
					策定当初目標値	更新後
小 学 生	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	2％以下	0.1％以下
中 学 生	0.9%	0.2%	0.2%	0.1%	5%以下	0.1％以下

区立学校の朝読書や学校図書館の充実等の効果により目標を達成しました。

＊不読者率とは、１か月間に本を１冊も読んでいない児童・生徒の割合をいう。

２　第五次推進計画策定にあたっての留意点

第四次推進計画では、計画期間中に区立図書館の利用が増加しました。その内訳は小学生の増加が最も大きく、次に中学生、高校生等の順となっています。

国は、全国的に小・中学生までの不読率は改善傾向にある一方、高校生は依然として高いとしています。新宿区でも同じ傾向が見られました。

第五次推進計画では、このような状況を背景に、国や東京都、学習指導要領の方針を踏まえ、発達段階等に応じた支援を推進し、「家庭読書の推進」と「中・高校生等向け読書支援の充実」を重点的に取り組むこととしました。

また、計画策定の基礎調査としてアンケートを行い、子どもたちの読書状況等を調査し、課題の把握と分析を行いました。

（１）　子どもの読書環境を取り巻く社会情勢の変化

情報化社会が急速に進展し、子どもの読書環境が大きく変化しています。

特にスマートフォン等を通じてインターネット上の文章を読んだり、情報を検索したりすることが日常生活に定着しています。学校でも情報通信手段を活用した授業が行われ、子どもたちがインターネット等を利用する機会が飛躍的に増えています。

紙の本だけでなく、電子情報も読書の対象となり、情報が氾濫する中で、子どもの読書環境を取り巻く社会情勢が変化しています。

（２）　国・東京都の動向と学習指導要領の改訂

①　国の動向

第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」（平成３０年４月施行）では、小・中学生の不読率は、中長期的には改善傾向にありますが、高校生の不読率は依然として高いことを課題としています。

その要因に、「中学生までの読書習慣の形成が不十分」、「高校生になり読書の関心度合いの低下」、「スマートフォンの普及等による子供の読書環境への影響の可能性」等があると分析し、その方策として、「読書習慣の形成に向けて、発達段階ごとの効果的な取組を推進すること」、「友人同士で本を薦め合うなど、読書への関心を高める取組を充実すること」、「情報環境の変化が子供の読書環境に与える影響に関する実態把握・分析を行うこと」としています。

②　東京都の動向

現行の「第三次東京都子供読書活動推進計画」（平成２７年度～令和元年度）は、計画の目指すものとして、「不読率の更なる改善」、「読書の質の向上」、「読書環境の整備」を掲げています。

特に、「読書の質の向上」は、一人ひとりの興味・関心に合った本を読み、読書の幅を広げ、読解力をつけるための「読む本の質の向上」、及び読書に喜びを感じ、目的をもって本を読み、考えを深め他人に伝えるための「読書に主体的に関わる態度の育成」を図ることとして、新たに加えたものです。

また、読書活動に直接関わる取組を実施する主体間で確実に連携し、効果的に実施できるよう、計画を「乳幼児」、「小・中学生」、「高校生等」、「特別な支援を必要とする児童・生徒」の成長段階別の構成とし、各段階の取組方針を明確にしました。

③　学習指導要領の改訂（平成２９年度告示）

今回の改訂では、総則において「学校図書館を計画的に利用しその機能活用を図り、児童・生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童・生徒の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること」としています。

更に、「地域の図書館や博物館（中略）等の施設の活用を積極的に図り、資料を活用した情報の収集を充実すること」としており、これらを視野に入れて事業を推進する必要があります。

（３）　子ども読書活動に関するアンケート調査結果

第五次推進計画を通じて、子どもが様々な本と出会う環境づくりを推進するため、子どもたちと本とのふれあいの現状を調査しました。

①　家庭での読書状況アンケート

実施時期：令和元年６月１日～６月９日
実施場所：新宿区立こども図書館内及び新宿子育てメッセ会場
有効回答数：計１３４人
　子ども：５０人（０歳～５歳　２４人、６歳～１２歳　２６人）
　大　人：８４人
　内　訳：こども図書館　　：子ども　４４人　大人　５９人　計１０３人
　　新宿子育てメッセ：子ども　　６人　大人　２５人　計　３１人
　アンケート内容…資料編参照
集計は、小数点以下第二位を四捨五入しています。したがって、数値の合計が１００．０％にならない場合があります。

🕮　本が好きな子どもと大人の割合について

本が「大好き」な子どもは６８．０％、大人は４４．０％、「好き」な子どもは、２４．０％、大人は４５．２％でした。

アンケートを子ども図書館と新宿子育てメッセの区立図書館コーナーで実施したため、図書館を利用している子どもや大人は、本が「大好き」又は「好き」な人の割合が高い傾向が出ています。

図表１－１：子ども　あなたは本や絵本が好きですか　　単位（人）

	だいすき	すき	ふつう	きらい	計
子ども　計	34	12	3	1	50
	68.0%	24.0%	6.0%	2.0%	100.0%

図表１－２：大人　あなたは本が好きですか　　単位（人）

	大好き	好き	普通	嫌い	計
大人　計	37	38	9	0	84
	44.0%	45.2%	10.7%	0.0%	99.9%

四　家庭での読み聞かせ状況について

家の大人に「よく本を読んでもらう」子どもは３０人（６０．０%)、うち２９人が「本が大好き」又は「好き」な子どもです。家庭で「子どもによく本を読む」大人は５５人（６５．５%)、うち４９人が「本が大好き」又は「好き」な大人です。

また、「時々読んでもらう」子どもが１４人（２８．０%)、うち１１人が「本が大好き」又は「好き」です。「時々読む」大人は２１人（２５．０%)、うち２０人が「本が大好き」又は「好き」と回答しています。

本をよく読んでもらう子どもには、本が好きな割合が高い傾向があります。

また、本が好きな保護者であっても、子どもに本を読んだり、本について話し合う機会が十分に取れない状況もありました。

図表２－１：子ども「お家のおとなの人から本を読んでもらうことはありますか」単位（人）

	だいすき	すき	ふつう	きらい	計	%
よく本を読んでもらう	22	7	1	0	30	60.0%
ときどき読んでもらう	8	3	2	1	14	28.0%
あまり読んでもらわない	3	2	0	0	5	10.0%
読んでもらったことがない	1	0	0	0	1	2.0%
無回答	0	0	0	0	0	0.0%
子ども　計	34	12	3	1	50	100%
	68.0%	24.0%	6.0%	2.0%	100%	

図表２－２：大人「家でお子さんに本を読んであげていますか」　単位（人）

	大好き	好き	普通	嫌い	計	%
よく本を読む	30	19	6	0	55	65.5%
時々読む	5	15	1	0	21	25.0%
あまり読まない	0	1	0	0	1	1.2%
全く読まない	1	2	1	0	4	4.8%
無回答	1	1	1	0	3	3.6%
大人　計	37	38	9	0	84	100.1%
	44.0%	45.2%	10.7%	0.0%	99.9%	

四　家族と本について話し合う状況について

「よく話をする」大人は２２人（２６．２％)、「時々話をする」大人は３９人（４６．４％）で、約７割の回答者が本について家族と話す機会がありました。

また、本の楽しみ方としては、「一緒に同じ本を読む」が５６．３％、「お互いに読みあう」が１９．８％、「感想を言い合う」が１５．６％の順でした。

図表３－１：　こども　「家族で本について話をしますか」　　単位（人）

	だいすき	すき	ふつう	きらい	計	%
よく話をする	12	2	1	0	15	30.0%
ときどき話をする	12	7	1	1	21	42.0%
あまり話をしない	7	2	1	0	10	20.0%
ぜんぜん話をしない	2	1	0	0	3	6.0%
無回答	1	0	0	0	1	2.0%
子ども　計	34	12	3	1	50	100%
	68.0%	24.0%	6.0%	2.0%	100%	

図表３－２：大人　「家族で本について話をしますか」　　単位（人）

	大好き	好き	普通	嫌い	計	%
よく話をする	17	5	0	0	22	26.2%
時々話をする	20	16	3	0	39	46.4%
あまり話をしない	0	14	5	0	19	22.6%
まったく話をしない	0	2	0	0	2	2.4%
無回答	0	1	1	0	2	2.4%
大人　計	37	38	9	0	84	100%
	44.0%	45.2%	10.7%	0.0%	99.9%	

図表３－３：大人「お子さんとどのように本を楽しんでいますか」（複数回答可）　　単位（件）

	大好き	好き	普通	嫌い	計	%
お互いに読み合う	9	8	2	0	19	19.8%
登場人物のセリフを 役割分担して言い合う	2	1	0	0	3	3.1%
一緒に同じ本を読む	23	25	6	0	54	56.3%
感想を言い合う	7	7	1	0	15	15.6%
その他	3	1	1	0	5	5.2%
大人　計	44	42	10	0	96	100%
	45.8%	43.8%	10.4%	0%	100%	

【家庭での読書状況アンケート　まとめ】

アンケート結果から、図書館をよく利用する子ども及び大人は、読み聞かせや読書を楽しみ、家庭で読書習慣が育まれていく様子が見られました。

また、本が好きな保護者であっても、子どもに本を読んだり、本について話し合う機会が十分に取れない状況もありました。

図書館をよく利用する子どもも、利用していない子どもも、本を好きになってもらうためには、本とふれあえる場所と機会が身近にあることが大切です。

幼い段階から子どもが様々な本と出会うことができる環境づくりが必要です。

②　中・高校生等の読書状況アンケート

実施時期：令和元年６月１日～６月２５日
実施場所：新宿区立牛込第三中学校　　（中学２年生）
　　私立海城学園　　（中学２年生及び高校２年生）
　　私立保善高等学校　　（高校２年生）
　　東京都立新宿山吹高等学校　（単位制学校のため高校２年生相当）
有効回答数：計８１１人
アンケート内容…資料編参照

中・高校生等の読書状況を把握し、読書活動の充実を図る基礎調査として、区内の中学校２校と高校３校の協力を得て、アンケート調査を実施しました。

🕮　中・高校生等の読書状況について

図表４－１　「あなたは、読書は好きですか」

単位（人）

好き	普通	嫌い	有効回答数　計
390	367	54	811
48.1%	45.3%	6.7%	100.1%

読書が「好き」と答えた生徒の割合は４８．１％で、「普通」は４５．３％、「嫌い」が６．７％で、「普通」と「嫌い」を合わせた生徒は約半数を超える状況でした。

図表４－２　「好きな本や、前に読んで印象に残った本（雑誌、マンガ、参考書、電子書籍を含む）はありますか」

単位（人）

	好き	普通	嫌い	計	%
ある	340	242	23	605	74.6%
ない	37	98	27	162	20.0%
無回答	13	27	4	44	5.4%
合計	390	367	54	811	100%

読書が「好き」と答えた生徒は、自分の好きな本や印象に残った本が「ある」との割合が高く、読書が「嫌い」な生徒は、「ない」と答えた割合が半数を超えていました。

四　中・高校生等の区立図書館・学校図書館の利用状況について

区立図書館の利用状況は、「毎週利用する」が２．７％、「月１～２回」が５．７％で、定期的に利用している生徒は８．４％います。

一方、「利用したことがない」生徒は６０．０％おり、読書が「好き」でも「普通」でも約６割が「利用したことがない」と答えています。

学校図書館の利用状況は、「毎週利用する」生徒が１４．４％、「月１～２回」が１５．４％あり、約３割の生徒が定期的に利用しています。一方、「利用したことがない」生徒は３９．６％で、読書が「好き」な生徒で約３割、「普通」な生徒でも約５割が「利用したことがない」と答えています。

図表５－１　「区立図書館を利用していますか」　単位（人）

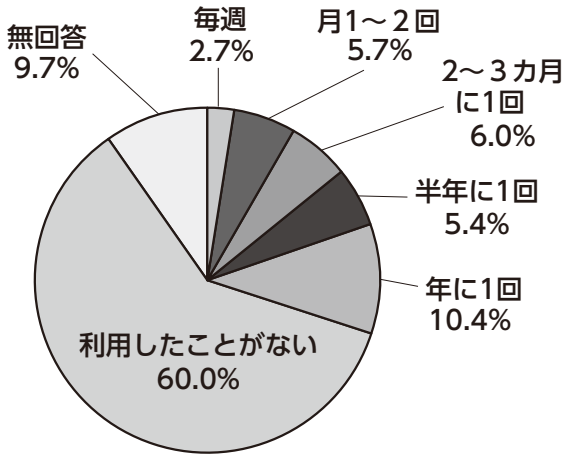
	好き		普通		嫌い		計	%
毎週利用する	12	3.1%	10	2.7%	0	0.0%	22	2.7%
月１～２回	27	6.9%	17	4.6%	2	3.7%	46	5.7%
２～３カ月に1回	29	7.4%	20	5.4%	0	0.0%	49	6.0%
半年に1回	22	5.6%	19	5.2%	3	5.6%	44	5.4%
年に1回	34	8.7%	45	12.3%	5	9.3%	84	10.4%
利用したことがない	238	61.0%	208	56.7%	41	75.9%	487	60.0%
無回答	28	7.2%	48	13.1%	3	5.6%	79	9.7%
合計	390	99.9%	367	100.0%	54	100.1%	811	99.9%

図表５－２　「学校図書館を利用していますか」　単位（人）

	好き		普通		嫌い		計	%
毎週利用する	104	26.7%	12	3.3%	1	1.9%	117	14.4%
月１～２回	85	21.8%	37	10.1%	3	5.6%	125	15.4%
２～３カ月に1回	35	9.0%	36	9.8%	1	1.9%	72	8.9%
半年に1回	10	2.6%	21	5.7%	3	5.6%	34	4.2%
年に1回	27	6.9%	42	11.4%	5	9.3%	74	9.1%
利用したことがない	120	30.8%	168	45.8%	33	61.1%	321	39.6%
無回答	9	2.3%	51	13.9%	8	14.8%	68	8.4%
合計	390	100.1%	367	100.0%	54	100.2%	811	100%

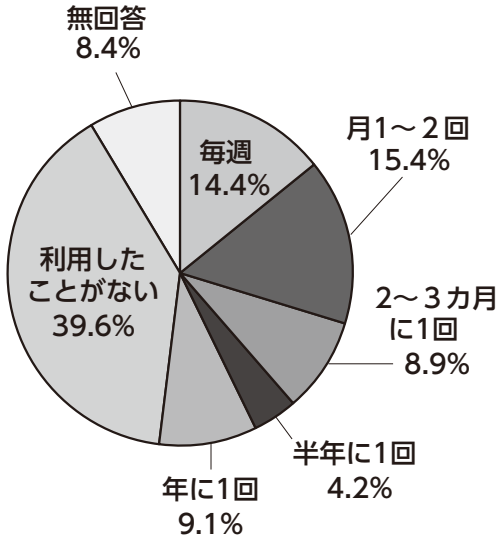
図表５－１

新宿区立図書館を利用していますか



図表５－２

学校図書館を利用していますか



図表６　「本を読まない・読まなかった理由は何ですか」（複数回答可）　　単位（件）

	好き		普通		嫌い		回答数	%
興味のある本がなかった	17	20.7%	51	17.8%	12	14.8%	80	17.8%
読みたい本がわからない	11	13.4%	39	13.6%	16	19.8%	66	14.7%
受験勉強や部活動で忙しい	36	43.9%	92	32.2%	13	16.0%	141	31.4%
めんどうくさいから	17	20.7%	93	32.5%	36	44.4%	146	32.5%
字が小さいから	1	1.2%	11	3.8%	4	4.9%	16	3.6%
合計	82	99.9%	286	99.9%	81	99.9%	449	100%

本を読まない、読まなかった理由の割合としては、読書が「好き」と答えた生徒では「受験勉強や部活動で忙しい」が一番高く、「興味のある本がなかった」、「めんどうくさいから」が同じ状況でした。

また、「普通」と答えた生徒では、「めんどうくさいから」が一番高く、「受験勉強や部活動で忙しい」、「興味のある本がなかった」の順でした。

読書が「嫌い」と答えた生徒は「めんどうくさいから」が一番高く、「読みたい本がわからない」、「受験勉強や部活動で忙しい」の順となっています。

🕮　区立図書館でどのような本を読みたいかについて

図表７　「区立図書館にどのような本があるといいですか」（複数回答可）　　単位（件）

	好き		普通		嫌い	
小説	260	28.2%	138	22.9%	11	14.3%
ライトノベル	111	12.0%	56	9.3%	7	9.1%
調べ学習の本や課題図書	81	8.8%	54	9.0%	6	7.8%
学習参考書	78	8.5%	58	9.6%	8	10.4%
部活や趣味の本	81	8.8%	69	11.4%	10	13.0%
進学・就職の本	37	4.0%	27	4.5%	4	5.2%
悩みや生き方のヒントの本	30	3.3%	19	3.2%	4	5.2%
多言語・母国語の本	23	2.5%	25	4.1%	3	3.9%
マンガ	163	17.7%	124	20.6%	18	23.4%
雑誌	56	6.1%	33	5.5%	6	7.8%
その他	3	0.3%	0	0.0%	0	0.0%
合計	923	100.2%	603	100.1%	77	100.1%

「区立図書館にどのような本があるといいですか」との問いでは、読書が「好き」と答えた生徒では、「小説」「マンガ」「ライトノベル」に人気がありました。

読書が「普通」と答えた生徒では、「小説」「マンガ」「部活や趣味の本」の順に人気がありました。

読書が「嫌い」と答えた生徒では、「マンガ」「小説」「部活や趣味の本」の順で人気がありました。

🕮　中・高校生等の区立図書館のイベント参加について

図表８　「区立図書館のどのようなイベントに参加したいですか」（複数回答可）　単位（件）

	好き		普通		嫌い	
図書館内のサークル活動	37	9.9%	40	14.0%	30	15.2%
図書購入ワークショップ等	121	32.4%	56	19.6%	43	21.8%
イチオシ本紹介やＳＮＳ等での情報発信	94	25.2%	90	31.6%	59	29.9%
イベント企画及び参加	41	11.0%	46	16.1%	28	14.2%
図書館を利用した交流事業	80	21.4%	53	18.6%	37	18.8%
合計	373	99.9%	285	99.9%	197	99.9%

「区立図書館のどのようなイベントに参加したいですか」との問いでは、読書が「好き」と答えた生徒の人気が一番高いイベントは、「図書購入ワークショップ等」でした。一方、「普通」及び「嫌い」と答えた生徒の一番人気の高いイベントは、「イチオシ本紹介やＳＮＳ等での情報発信」でした。

【中・高校生等の読書状況アンケート　まとめ】

アンケートの結果から、区立図書館を利用したことのない生徒の割合は約６割でした。

学校図書館を利用したことのない生徒の割合と比べても、高い状況です。

一方、区立図書館を定期的に利用している生徒は８．４％で、学校図書館を定期的に利用していると答えた約３割に比べ低い状況です。

区立図書館を定期的に利用している生徒が、区立図書館は面白く役に立つものと感じてもらえるように、読みたい本の収集及び本の紹介や読書イベント等を行い、１人でも多くの生徒に区立図書館を利用してもらえるよう、施策の充実を図る必要があります。

実施に当たっては、学校図書館とも連携して取組内容を検討していきます。

３　今後の取組課題と第五次推進計画の方向性

（１）３つの取組課題

①　子どもの読書習慣を育むための家庭や身近な読書環境の整備

これまでの取組で、地域の読書環境は一定の整備が図られ、家庭への周知も行われてきました。一方、以下の課題があります。

○　全ての子どもたちが自ら読書に親しみ、自ら学ぶことができるように、環境の充実が必要です。

②　子どもの発達段階等に応じた支援の充実

第一次推進計画から、区は年齢に応じて乳幼児から中・高校生等まで途切れることのない読書支援に取り組んできました。一方、以下の課題があります。

○　小学生までは区立図書館をよく利用していますが、中・高校生等になると減少する傾向があるため、中学生までの間に読書習慣を醸成する必要があります。

○　今後は、乳幼児、小学生、中・高校生等と発達段階等に応じて変化していく読書活動の具体的な取組方針を明確にし、支援の充実を図る必要があります。

○　区立学校では、学校図書館の「読書センター」、「学習センター」、「情報センター」機能の強化を図り、学校教育の中核施設として充実する必要があります。

③　関係機関の連携による子ども読書活動の推進基盤の整備

これまでの取組で、区立図書館の団体貸出を通じて関係機関の連携を推進し、協力して計画の趣旨普及や情報発信に取り組んできました。一方、以下の課題があります。

○　子どもたちが地域のより身近な場所で読書や読み聞かせを楽しむことができるように、関係機関が一層連携して読書活動を推進する基盤の整備と人材を育成する必要があります。

○　子どもの読書活動に関する情報が一目で分かるよう、情報の収集と発信が必要です。

○　子どもの読書活動の現状把握と分析が必要です。

（２）　第五次推進計画の目指す方向性

第五次推進計画では、このような課題の解決に向けて、３つの方向性に取り組みます。

①　読書環境の更なる充実

○　区立図書館は、引き続き、読書環境の充実と利用促進を図ります。

○　学校図書館は、自由な読書活動や読書指導を行う「読書センター」機能の充実に取り組み、小学校における放課後等開放を推進します。

○　幼稚園・保育園・子ども園は、絵本コーナーの充実と読み聞かせの実践を推進します。

○　子育て関係施設は、図書コーナーの整備や、蔵書の充実、読み聞かせを推進します。

○　これらの関係機関が連携して、家庭での読書の大切さを保護者に周知します。

②　発達段階等に応じた読書支援の更なる推進

○　乳幼児

読み聞かせで多くの本に触れ、本が好きになるようにします。

○　小学生

低学年は、好きな本と出会い、たくさん読むことができるようにしていきます。高学年では、多様なジャンルの本と出会い、言語能力と表現力を高められるようにします。

○　中・高校生等

自己の向上につながるよう課題解決のための読書や学習が主体的にできるようにします。

○　特別な支援を必要とする子ども

障害等のある子どもには、個々の状況に応じて必要な機材や資料の充実を図り、読み聞かせの工夫を行っていきます。その他にも、区内の４病院*に入院している子どもへの配本サービスを継続します。

外国語を母語とする子どもには、外国語絵本等の収集及び展示、日本語と外国語による読み聞かせ等を行い、読書に親しむことができるようにしていきます。

＊　東京山手メディカルセンター、東京医科大学病院、国立国際医療研究センター病院、東京女子医科大学病院に区立図書館の絵本コーナーを置き、団体貸出制度で配本している。

③　子ども読書活動推進の基盤整備

○　区立図書館は、団体貸出の充実、図書館サポーターの読み聞かせ活動の充実、人材育成、子どもの読書活動に関する情報の収集と発信に取り組みます。また、蔵書やイベント等を充実し、利用促進を図ります。

○　学校図書館は、児童・生徒や教職員の情報ニーズに対応し、情報収集・選択・活用能力を育成する「情報センター」機能の充実を図ります。教員や学校図書館スタッフの研修や学校図書館の活用資料の作成に取り組み、活用します。また、自主的・自発的かつ協働的な学習活動を支援し、授業内容を豊かにしてその理解を深める学校図書館の「学習センター」機能の充実に取り組みます。